

平成25年12月4日（水）

（午前9時30分 開議）

○議長（石橋英和君）おはようございます。
ただ今の出席議員数は21人で定足数に達しております。

○議長（石橋英和君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（石橋英和君）これより日程に入り、
日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において8番 山田君、22番 中本正人君の2名を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（石橋英和君）日程第2 一般質問を行います。

順番14、4番 楠本君。

〔4番（楠本知子君）登壇〕

○4番（楠本知子君）皆さん、おはようございます。

きょうは朝、新聞見ましたら、きょうは震災から1000日目ということで載っておりました。避難生活者、今なお約28万人ということで、本当にこれからまた寒い冬がやってまいります。一日でも早い復興をお祈り申し上げたいと思います。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

1番目は、総合型地域スポーツクラブの活用についてであります。

総合型地域スポーツクラブは、学校の体育

館などを利用して、地域住民が主体となって運営をしているクラブです。小学生から高齢者まで世代を超えて、スポーツをはじめ将棋や書道など、文化プログラムも多く取り入れられ、活発なところでは、若者の交流にとスポーツ婚活にも広がっています。

総合クラブは1995年、平成7年に国においてモデル事業がスタートをいたしまして、来年で20年目となります。現在、全国に3,494団体あるということで、昨年の文部科学省がまとめたスポーツ基本計画でも、生涯スポーツの柱と位置づけられ、全国1,742市区町村全てに設置を目指すとしています。現在のこの総合型クラブの全国育成率は79%となっています。

先日の読売新聞で、この総合型地域スポーツクラブが紹介をされていたんですけれども、NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブの活動が紹介されておりました。これは愛知県の半田市にあるんですけれども、半田市の市立の成岩中学校において、平成8年ですけれども、文部科学省のモデル事業として発足をされ指定管理として設立されたクラブです。6年後の平成14年には法人化をされて、平成15年には拠点を学校敷地内に4階建てのクラブハウスが整備されました。現在の会員数は約2,400人ということで、小学生たちが元日本代表の指導のもとで、ホッケー教室とかが開催され、地域ボランティアによりバドミントン教室、それから野球やサッカー、太極拳、ヨガ教室などが開かれ、喫茶室や浴室もあり、平日は地域の方の交流の場になっているとの紹介でございました。

2020年、東京五輪が成功いたしまして、スポーツを通して、世代を超えた交流や地域に

密着した住民交流ができるスポーツ文化の定着がこれからさらに求められていくのではないかと思います、質問をさせていただきます。

①橋本市には総合型クラブはありますか。

②どのような活動をされていますか。

③和歌山県教育委員会は高等学校再編整備第2期実施プログラムを発表されました。高野口地域にある伊都高校が今年度で普通科の募集を最後とし、新たな高校を開設することになりました。県民からのパブリックコメントに対しまして、県教育委員会は、従来の全日制、定時制、通信制高校の概念にとらわれない、全く新しいタイプの学校を開校するとともに、スポーツや文化活動など学校を地域の活動、学びの場とすることで、これからの時代をリードする新しいタイプの学校を、和歌山県から発信すると示されています。地域共育コミュニティの理念や目指すところは、この総合クラブの目指すものと同じであります。今後、橋本市においても総合クラブの活動が大いに活発化をし、その役割を担っていただけるようになっていただきたく、市としての支援について伺います。

2番目に、認知症対策の充実についてであります。

高齢者健康福祉計画及び介護保険事業計画であります橋本さわやか長寿プラン（平成24年～26年度）版には、認知症対策を重点的な取り組みとされています。厚生労働省の認知症施策推進5か年計画（平成25年～29年度）によりますと、平成27年には、認知症高齢者は345万人（10.2%）、平成32年には410万人（11.3%）、平成37年には470万人（12.8%）と増加を見込まれています。ただし、この推計は要介護認定データによる算出でされておりますので、要介護認定行っていない認知症高齢者は含まれていないことから、実際はもっと多いと思われます。

橋本市においても高齢化に伴って、認知症高齢者も増加すると予測されます。認知症に対する正しい理解と啓発、認知症予防や早期発見、サービスの質の向上など、現在取り組んでいただいておりますが、さらなる取り組みが必要と考え、進捗状況とあわせて伺います。

①認知症対策の具体的対策として、標準的な認知症ケアパスの作成と普及が言われておりますが、認知症ケアパスは作成されていますか。

②シニアカレッジ、認知症サポーター養成講座など、受講された方々の活躍の場について伺います。

③介護職員の認知症に対する研修はなされていますか。

④地域包括支援センターで電話相談はできますか。認知症ケア専門士の資格者はいますか。

⑤かかりつけ医と認知症サポート医との連携について伺います。

以上、2項目について答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君の質問項目1、総合型地域スポーツクラブに関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）おはようございます。

総合型地域スポーツクラブについてお答えします。

橋本市には三つの総合型地域スポーツクラブがあり、活動内容はそれぞれ異なっております。

最初に結成されたげんき倶楽部はしもとは、旧橋本市域の小・中学校体育館・橋本市運動公園などでドッジボール、バレーボール、バ

スケートボール、鬼ごっこなどの種目に取り組み、小学生の会員を中心に活動されています。

2番目に結成された、ファインクラブ高野口は高野口地域を中心に、少年サッカー、軟式野球、少林寺拳法などのスポーツ少年団を母体とした小中学生を対象とした教室や、高野口地区公民館を会場に、健康体操やヨガなど成人を対象にした教室を行っています。

一番新しい初橋スポーツクラブ設立準備委員会は、月に二、三回程度、初芝橋本中学校高等学校のテニスコートで、橋本市内在住の幼稚園年長から小学6年生を対象としたキッズテニス教室を中心に活動を行っています。

総合型地域スポーツクラブは、市民が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで、さまざまなスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという可能性を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブであることから、本市のスポーツ振興にとって重要な役割を担っていただけるものと期待しています。

しかし、今年度実施したスポーツに関する市民アンケートの調査では、総合型地域スポーツクラブの認知度は市民の1割程度にとどまっており、教育委員会として今後、市民に対して、市ホームページ等を通じて広報を行い、周知に努めてまいります。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君、再質問ありますか。

4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ご答弁ありがとうございます。それでは、再質問をさせていただきたいと思います。

先ほど紹介していただきましたように、橋本市においては三つのクラブがあるというこ

とがわかりました。活動内容も紹介をいただきました。前段で、全国の設置状況、育成状況など、ちょっと説明させてもらったんですけれども、和歌山県下における育成状況とかはわかりますか。

よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）去年の12月現在の設置状況、準備状況でございますけれども、和歌山市で10クラブが設立既にされておまして、6クラブが設立準備中ということでございます。それから、同じく、海南市では3クラブ、有田市でも3クラブ、御坊市でも3クラブ、田辺市が5クラブ、新宮市が1クラブ、紀の川市が2クラブ、岩出市が2クラブ。市でいいますと以上のような形でございます。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ありがとうございます。

和歌山県下における設置状況なんですけれども、先ほど少し紹介していただきましたけれども、県内26市町村においては58クラブあるそうでございます。そこで設置をされているのが15市町村で36クラブで、準備中のクラブが14市町村22クラブあるということが、平成25年4月1日現在の状況だそうでございます。和歌山県下における設置状況につきましても、まだまだ設置、これから準備中というクラブが22クラブもありますので、まだまだ和歌山県においてもこれから育成されていかれるのかなという感じがいたします。

こういったクラブは地域が主体的になって、地域住民がつくっていただいているクラブという感じですが、こういったクラブの財源はどのようになっているのかお教えいただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）基本的にはそのクラブに参加する会費をもって運営をしておる

ということになります。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）会費だけで、設立されて進んでいっているということでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）基本的にはそういうふうには会費で運営をしております。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）市の支援といいますか、市からの財政支援はないかと思うんですけども、国からの支援とかいろいろありますでしょうか。そういうの含めて、設立のときには、それなりの財政支援があるというふうにお聞きしているんですけど、それは全くないんですか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）t o t oの助成があるように聞かせていただいております。

それから、市のほうでございますけども、去年度から、先ほど紹介をしたクラブ3チームが協会を設立しまして、橋本市の体育協会に加盟をいただいております。その関係で、体育協会のほうを通じて、スポーツクラブの協会のほうに団体助成金、それから、市民総合体育大会の運営助成金を市のほうから間接的にはありますけども、交付させていただいておるといってございまして。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）t o t oの助成金とか、設立するにはそういった助成金があつて、かなり財政支援がされているというふうに感じているんですけど、しかし、最初の財政支援は、このクラブが、地域住民が主体になっているクラブであるので、市は全然状況というかそういう細かいことまでタッチしないから、あまりわからないから、そういうご答弁になるんでしょうか。

もう少し具体的に、例えば、どれくらいの

支援をして、設立できるのかなというのをお教えいただきたいと思うんですけど、それはちょっとわかりませんか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）今、手持ちの資料では具体的なそのt o t oの助成等については、ちょっとわかりかねます。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）そしたら、私も詳しくわからないので、お教えいただきたいな思っていたんですけども、最初に財政支援があるから、最初はやりやすいんだけども、なかなか特に5年間ぐらいは支援があるんだけども、その後、設立して、そして存続して維持していくというのが大変苦勞するというふうなことをお聞きしてたんですけども、最終的にはそういった会費のみでやっていけないクラブであるというふうに思ってたんですけども。

そういったクラブは設立20年目までということで、まだまだ和歌山県下においてもそうですし、橋本市においても、こうして今、三つのクラブが誕生しておりますけれども、げんき倶楽部はしもとが、一番、平成17年から設立をされて、その5年目をクリアされて、そして、今8年目ぐらいになるのかな、それぐらいもう頑張ってください、地域にげんき倶楽部はしもとということで、その名前が浸透されているかと思えます。

そして、各クラブにおけるホームページもつくっていただいて、ホームページを見ただけであれば、どういった活動をされているのかというのがわかるのかなとは思いますが、その名前では周知されているかもわかりません。ファインクラブ高野口は、平成24年ですよ。ですからまだまだ2年目ということで、まだまだ周知されていないし、初橋スポーツクラブにつきましても準備委員会

ということで、まだこれからという感じがいたします。各クラブがあるんですけれども、そのホームページにたどり着くまでに、先ほど周知度については、1割程度しか周知がなかなかされていないというふうにもうご答弁いただきましたけど、本当に名前は通っていても、そのクラブが総合型地域スポーツクラブであるということは、なかなか結びつかないというか、そういう現状をもう少しもっと周知していただくという意味で、具体的にはどういったことを橋本市として、今後、つないでいただけるか、再度ご答弁いただけますでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）先ほども答弁の中でさせていただきましたが、認知度はまだまだかなり低うございます。これは橋本市だけではなしに、全国的な状況というふうに聞かせていただいております。

現在、スポーツ推進計画を今年度中をめどに策定することになっておりまして、その中にはこのクラブの代表の方2名も参加していただいておりますという現状もございますし、今後の橋本市のスポーツ振興において、中心的役割を担っていただけるクラブ、団体というような組織になっていくというふうなこともございますので、その辺も含めて、周知する方法等を計画策定の中でもいろいろと協議いただいて、周知徹底を図れるような方策を考えていきたいと、今具体的にどうというのはございません。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）今、具体的にどうということはございませんと言われましたけれども、具体的に取り組んでいただきたいと思っております。せっかく三つのクラブ立ち上げていただいて、やっぱり継続して存続をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひした

いと思ひます。

それから、3番目になるんですけど、この伊都地方において、伊都高校が新しく2015年からは生まれ変わるというか、名前につきましても、伊都高校になるかはまだまだわかっておりませんし、どんな高校になるかわかりませんが、私たち地元にある、地域にある学校ですので、その学校が、生徒お一人お一人の夢が実現できる、従来の概念にとらわれない全く新しいタイプの学校を開校しますと言われております。スポーツや文化活動など、学校を地域の活動、学びの場とするというふうにされております。

そしたら、こういった新しい学校を、これ高等学校ですので、ここで質問するのは場違いかなとは思いますが、教育長、ご答弁いただけたらありがたいんですけど、やっぱりこういった新しい高校、紀の川高校が伊都に来るというだけではなく、新しい、今までにない学校をつくっていくんだというふうに県は言われております。その思いを地域としても一緒に受けとめさせていただいて、本当にいい学校を地域につくって、なっただきたいと思ったんです。先ほど、私、前段で紹介させていただきましてのは、成岩中学校というところにおける総合クラブの活動が、もう2,000人からに及ぶ、一体になって活動されているのを読ませていただいて、すごいなと思ったんです。これは中学校ですけども、そういった総合クラブがそこに担っていただけるかどうかは、また別のことではあるかもわかりませんが、そういったクラブが担っていただける可能性もあると思ひます。また、今後、公民館活動などが、この新しい高校になる高校に大いに支援していただけることになるかもわかりませんが、そういった意味も含めて、そういった活動にどのようなご見解をお持ちか、また、どのような

メールを送っていただけるのかご助言いただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（松田良夫君）一つの課題として、地域における人のつながりが希薄化してきた、それをどうするかというのが国の大きな課題になってございます。その中で、学校が地域を変えていく、人のつながりをつくっていく拠点にしなければならないという、そういう考え方が文部科学省にございました。

その一つの取り組みとして、学校支援地域本部事業、和歌山県でいいますと、「きのくに共育」という取り組みで、いわゆる学校へさまざまな方、支援に入っていただくという取り組みの中で、地域の人々のつながりができてきたという、そういう評価もございます。このきのくに共育、学校支援地域本部事業というのは、学校発信で地域を変えていくというのが到達点の目標です。今度、伊都高校が新しく生まれ変わるという中で、伊都高校が地域のいわゆる生涯学習であるとか、生涯スポーツの活性化に役立てたいという、そういう発想を取り入れていただいたこと、大変すばらしいことかと思っております。伊都高校につきましては、本年度、いわゆる普通科の生徒、最後の募集にして、来年度から募集しません。そして、紀の川高校も本年度最後の募集をかけて、来年度から募集をしない。ただし、紀の川高校も伊都高校も、その在学生在が卒業するまで学校として残す。そういうふうに聞いてございます。したがって、新しい伊都高校が、全く定時制の高校ですので、昼間と夜間の学校で、昼の間はもう全く子供がいないという学校環境になるわけですが、持つとる施設としての教育機能というんですか、生涯学習に働きかけていく機能というんですか、それは大変大きいと思います。

今後、教育委員会として希望することは、生涯学習活動であるとか、生涯スポーツ活動であるとか、その点に地域のニーズを探る中で、積極的にいろんなプログラムをしてほしいし、実践もしてほしいと思っております。

そんな中で、高野口にある学校施設ですので、高野口のファインクラブと何らかの形で連携しながら、よりよい地域におけるスポーツ環境につながるような取り組みにつなげていっていただきたい、そういう強い願ひを持っており、県教育委員会とも、橋本市教育委員会としては協議をしていきたい、よりよい地域づくりに参加していただきたい、そういう願ひは伝えていきたい、そのように思っております。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ありがとうございます。先ほど教育長言われましたように、地元にありますファインクラブ高野口ですけれども、設立2年目で、現在まだ会員数25名ぐらいやと思います。そんなところで、大変、これからやなというクラブなんですけれども、今、新しい生まれ変わるであろう伊都高校との連携などもさらに強化していただきたいと思っております。

大変厚かましいんですけど、市長、その伊都高校、地元でやっぱりもっと支えていただけたらありがたいんですけど。何か一言ご見解いただければありがたいんですけど。

○議長（石橋英和君）市長。

○市長（木下善之君）大変、伊都高校の問題も気にしておるわけでご覧まして、それぞれ教育委員会、あるいは先輩の皆さんの意見もやっぱり聞いた中で、どうしていくかということについて、今後、煮詰めていくべきではないかなと考えておるわけでご覧しますので、議員の皆さん方におきましても、やはり

橋本市内にある高校であるので、ひとつそうした面で十分1回検討していただいて、そして、ある程度まとめて意見集約していくことが大事ではないかなと思っておりますので、あわせて私もその気持ちでおりますので、ひとつ集約できるようにお願いしたいと思います。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ありがとうございました。総合型地域スポーツクラブもますます活発化していただきますように、行政といたしましても、何とかいろんな形でご支援いただければと要望させていただきまして、1番目の質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、認知症対策に関する質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（栢谷俊介君）登壇〕

○健康福祉部長（栢谷俊介君）おはようございます。

認知症対策の充実についてお答えします。

1番目の認知症ケアパスは作成されていますかについてですが、認知症ケアパスという言葉は、これまでさまざまな意味合いで用いられてきましたが、厚生労働省による認知症施策検討プロジェクトチームの報告書には、認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れと定義されています。平成26年度中に、高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の見直しを行う予定ですが、その計画策定にあたり、重要課題の一つが認知症ケアパスの作成です。厚生労働省から認知症ケアパスの作成の手引も提供されていますので、本市においては、これまで培われてきた認知症の人を支える取り組みを整理し、認知症についての正しい知識を、家族、地域住民に対して紹介すると同時に、それぞれの役割をわかり

やすく示し、今後、ますます増加すると見込まれる認知症の人を地域でいかに支えていくのかを明示します。

2番目のシニアリーダーカレッジ、認知症サポーター養成講座など、受講された方々の活躍の場についてですが、シニアリーダーカレッジについては、60歳以上の高齢者の方を対象に実施し、平成21年度から3年間、認知症支援学科として、約180名の方が受講されました。認知症の方の介護経験のあるご家族や、医師、介護保険事業所、行政等それぞれの立場の講師から講義を受け知識を習得しました。その受講生が中心になり、介護予防応援隊を結成し、市内各地で老人クラブ主催の介護予防教室授業、ふれあいサロン授業等でご活躍いただいています。

また、認知症サポーター養成講座については、平成25年度では11月末現在で、市内老人クラブや小学生を対象に9回実施し、合計315名の認知症サポーターの養成を行いました。認知症を正しく理解し、地域の高齢者を応援する、温かく見守る、気になることがあれば身近な人に相談するなどを目的に養成を行っているところです。

3番目の介護職員の研修はなされていますかについてですが、介護職員に対しては、平成24年度、地域包括ケア会議において、「認知症、その見守り支援」をテーマに、介護保険事業所職員だけでなく、民生委員、行政職員等による情報交換や認知症の方を早期に発見するネットワークづくりを目指し研修を実施しました。平成24年度においては、延べ658名が参加しています。

4番目の地域包括支援センターで電話相談はできますか、認知症ケア専門士の資格者はいますかについてですが、認知症電話相談については、月に2度、地域包括支援センターにおいて実施しています。平成24年度におい

ては、62件の相談がありました。相談業務については、日常的に電話、窓口で対応しておりますが、認知症にかかわる相談件数が激増しているところです。

また、認知症ケア専門士の資格者は介護支援専門員と事務職の2名がいます。地域包括支援センターでは、保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士等が相互の専門性を生かしながら対応しています。

最後に、かかりつけ医と認知症サポート医との連携についてですが、認知症サポート医の役割は、かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役・アドバイザーとなるほか、ほかの認知症サポート医（推進医師）との連携体制の構築をすることとなっており、橋本・伊都地域には3名のサポート医がいます。

また、かかりつけ医に期待される役割は、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる医師で、（1）早期段階で発見・気づき、（2）日常的な身体疾患対応、健康管理、（3）家族の介護負担、不安への理解、（4）専門医療機関への受診誘導（医療連携）、（5）地域の認知症介護サービス諸機関との連携（多職種協働）です。

連携について、本市においては意見収集等を行ってはいませんが、厚生労働省研究事業による認知症サポート医等のあり方、研修体系・教材に関する研究事業によりますと、連携の仕組みや体制づくりを課題に挙げていますので、今後サポート医との意見交換等を踏まえ、それぞれの役割等広報活動に重点を置き、より連携ができるように努めてまいります。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君、再質問ありますか。

4番、楠本君。

○4番（楠本知子君）細かく5項目にわたり

ましてご答弁いただきましたので、特にお聞きさせていただきたいところだけ質問させていただきたいと思います。

認知症高齢者がどんどん増えてくるということで、橋本市の認知症高齢者の割合とかはやっぱり増えているということになるんだろうと思うんですけども、どのくらいなんでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）橋本市の認知症高齢者の割合についてのおただしでございますが、橋本市年齢階層別認知症有病率、平成24年度1月現在で調べたものがございます。65歳から69歳が63人、65歳から69歳の人口に対して1.5%でございます。それから、70歳から74歳が137名で3.6%、75歳から79歳が235名で7.1%。80歳を超えますと急激に増えまして、80歳から84歳で366名、14.6%、85歳以上になりますと、653名で27.3%でございます。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ありがとうございます。長寿になっていきますと、認知的な機能が低下していくということで、認知症の方がどんどん増えていくというふうになるのかと思うので、もう私もいつかは認知症になるんやなと思いつつ質問させてもらっているんですけど、85歳以上になったら、もう27.3%の方がということは、10人寄れば3人が認知の方って。

まだ、この間、テレビを、NHKの番組でちょっと見させてもらってたんですけど、高齢の漂流社会とかいう感じでね。軽度認知障害というのをMCIと言うんですけども、この認知症予備軍というのがいてはるらしくて、認知症予備軍を入れるともっともったくさんの方が認知症になるという、認知症になるのがもう本当に、高齢者になったらだいたい認知症がついてくるというふうになるの

かなと思ったんですけど、こういった質問もさせていただいて、地域全体で施設とか、そういうふうな入所とか、精神的な病院に入所とかいうのではなくて、私たち住んでいる地域でいろんな高齢者を支えていく仕組みを橋本市も一生懸命取り組んでいただいているというお答えであったと思います。

もう一つ、最初の認知症ケアパスを作成されていくということで、平成26年にはつくっていかれるということなんですけど、こういったケアパスをつくっていくことによって、橋本市の市民の方、また、高齢者の方、認知症を支える家族の方にとっては、どういったメリットがあるのかお教えいただきたいと思えます。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）まず、認知症ケアパスといいますのは、橋本市で既にいろんな認知症対策をやっておるんでございますが、それを体系化したものが認知症ケアパスになるんですが、認知症ケアパスは先ほど申し上げましたように、認知症の状態に応じた適切なサービスの流れを示すもので、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、よりよい環境で暮らし続けることができる社会を目指すためにつくるものでございます。認知症の本人とか家族の方が、認知症の進行に合わせて、いつどこでどのような医療介護を、サービスを受ければよいかというのをあらかじめ標準的に決めておいて、その家族の方とか本人が症状が発生したときに、どういった医療機関や介護サービスでどのような支援を受けることができるかを早目に理解できる、そういう道しるべになるものでございます。こういうものを利用していただいで、できるだけ早く、的確に家族の方や本人の方が認知症に対応できるようにというものでございます。

以上です。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）道しるべになるようなものということで、それを作成していただくことによって、早期にいろんな予防ができたり、対処できるということですかと思うんですけど、それをつくっていただいたら、やはりしっかりと周知をしていただきたいということを要望させていただきます。

あと、認知症をはじめ認知症を支える家族の方々にとっては、いろんな相談窓口が必要であると思えます。そういった相談窓口を、3番、4番、5番に書かせていただいたんですけども、一番私たちが接する、介護のケアマネージャーであったり、また、ヘルパーであったり、そして、地域包括支援センターの窓口も、もちろん、認知症ケア専門士を2名つけていただいでおりますので、十分相談ができると、安心して相談できるということでございます。

また、私たちがふだん通うかかりつけ医におきましても、認知症サポート医と連携をとりながら、いろんな認知に対する知識も、かかりつけ医はしっかりと持っていただいでいるので、私たち高齢者、市民にとりましても、いろんな窓口がいっぱいあるよというふうな受けとめさせていただいたんですけども、私も今回、3回目ぐらいになるんですけども、地域包括支援センターが、大変橋本市においては、高齢者の窓口、いろんな窓口において重要な役割を担っていただいでいるところであるということ、また、強化していただきたいことを常々訴えさせていただいております。

突然で、また申しわけないんですけど、何回も聞かせていただいで、今回3回目ぐらいになるんかと思うんですけど、この地域包括支援センターの電話番号、消防長、何番かご

存じでしょうか。

○議長（石橋英和君）消防長。

○消防長（大谷 明君）過去に何回も聞かれるということで、0120-555-ふくし294だと記憶しております。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ありがとうございます。

3人目の消防長、しっかりとお答えいただきまして、さすがに地域包括支援センターもしっかりと周知していただいているかと思えます。認知症におきまして、早期に発見をしていくことが、予防していくことが、いずれの病気にあってもそれが一番大事やと思いますので、これからも、ご活躍、また取り組みを進めていただきますようお願いをさせていただいて、終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（石橋英和君）4番 楠本君の一般質問は終わりました。

この際、10時35分まで休憩いたします。

（午前10時18分 休憩）